

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
老年看護学実習 I (施設)	NSP34_003	必修	2	3	後期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
佐野 宏一朗 他	414	k.sano	月曜日 16:20～17:50		
授業の目的・概要	1) 施設に入所している高齢者の発達段階、心身の特徴、家族状況、健康障害と加齢が生活におよぼす影響を複合的に把握する力を養う。 2) 実習及び演習による看護実践を通して生命の質や生活の質を考慮した看護の実践を探究する。 3) 高齢者を取り巻く社会環境と家族関係、社会資源の活用の実際、医療保健福祉分野との連携の実践を学び、Teamsを活用しながら看護の果たす役割を検討および考察する。				
学習上の助言	今までに学習した内容をよく復習したうえで実習に臨むこと。施設実習、学内演習、Teams等を活用した実習となるため、Teamsを使用して積極的に質問などを行い、疑問点を解決できるよう努めること。				
教科書	特になし				
参考書	・実践から学ぶ特別介護老人ホームの看護/鎌田ケイ子/日本看護協会出版/2018 ・特別介護老人ホーム看護実践ハンドブック/伊藤雅治・伊部俊子/中央法規/2007 ・ナーシンググラフィカ老年看護②高齢者看護の実践/堀内ふき/メディカ出版/2016				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	高齢者が利用する施設の特徴と介護保険サービスの役割について理解する。	NS(2)(3)(4)			
②	施設で生活する対象者の身体・心理・社会的側面を理解する。	NS(1)(2)(3)(4)(5)			
③	老年期にある対象者の健康回復・維持・増進、および対象者が満足できる生活を目指すために必要な援助や看護について考え、実践できる。	NS(1)(2)(3)(4)(5)			
④	高齢者の人権やプライバシー、高齢者への尊厳などについて考え、倫理的態度を身につける事ができる。	NS(1)(2)(3)(4)(5)			
⑤	高齢者施設における看護師の役割と高齢者に関わる多職種の仕事について理解する。	NS(1)(2)(3)(4)(5)			
授 業 計 画					
1. 実習日程、実習場所	実習日程:3年次後期。学生を1グループ約7名に分け、各2週間実習する。 実習場所:特別介護老人ホームよこぶき荘、特別介護老人ホームよこぶきの郷、特別介護老人ホーム寿荘、大学内、Teamsの活用 実習1日目に実習の具体的な内容、留意事項などについて説明をする。詳しい実習内容は実習要項を参照する事。				
2. 具体的な実習方法	施設での看護実践の見学、コミュニケーション、学内でのシミュレーション実習、Teamsを活用した講義・GW等を実施する。				
3. 単位の認定及び評価	出席状況、実習記録、レポート等による総合評価				
4. 実習記録および課題レポートの提出	(詳細は実習要項参照)				

[専門教育科目/看護の展開/老年看護学]

学習課題・学習時間 (時間)								
老年看護学概論、老年看護援助論 I で学んだ事を総合的に活用する必要があるため、講義の復習をしっかりと行うとともに、実習施設の特徴や介護保険等の社会資源についても事前学習した上で実習に臨むこと。 実習中の疑問や対象者への援助に必要な知識・技術は各自で自己学習すると共に、Teamsの活用も含めて積極的に教員に質問して必ず疑問を解決すること。 <div style="text-align: right;">必要時間: 30時間</div>								
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		0	60	20	10	10	100	
総合力指標	知識・技術力	0	20	3	2	0	25	
	思考・推論・創造する力	0	20	3	2	0	25	
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	2	0	2	
	発表・表現伝達する力	0	10	3	0	0	13	
	コミュニケーション力	0	0	3	0	5	8	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	5	2	0	7	
問題を発見・解決する力	0	10	3	2	5	20		
評価のポイント								
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					フィードバックの方法	
試験	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
レポート	①	✓	最終レポートを含め、実習における記録物を総合的に評価する。実習過程で学んだ事を最終レポートに記載する。					記録内容、レポート内容について、担当教員からコメントを返す。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
成果発表	①	✓	学生主体でカンファレンスを実施し学びを共有する。学生は積極的に質疑応答に参加すること。					カンファレンスにおいて、担当教員からその都度コメントを返す。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
ポートフォリオ	①	✓	事前学習や日々の行動計画、実習の振り返りなどから学習に対する姿勢を評価する。					実習中に記録を提出し、その都度担当教員からコメントを返す。
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
その他	①		実習中は倫理的態度に基づいて行動する(言葉づかい、他者の話を聴く姿勢、報告・連絡等)。					その都度担当教員が指導を行う。
	②							
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
備 考								
担当教員:◎佐野 宏一朗、山崎 さやか 教員の実務経験 : 佐野は看護師として15年の実務経験。山崎は看護師として9年の実務経験。 実践的授業の内容: 実務経験のある教員の指導の元、高齢者への看護援助の実践方法を学びます。 自己の健康管理に十分注意し実習に臨むこと。大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守すること。問題がある場合は実習、対面演習の参加を認めません。体調が不良の時には、実習指導教員に相談するなどの適切な対応をすること。 Teams を使った同時双方向型授業の際には、授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスの変更がある可能性があります								